

平成27年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	チャンネルを中心とした構造生理学的研究
研究代表者	藤吉 好則（名古屋大学・大学院創薬科学研究科／CeSPI・特任教授）
研究期間	平成27年度～平成31年度
審査結果の所見	<p>応募者の光合成アンテナタンパク質、バクテリオロドプシン、水チャンネル、アセチルコリン受容体、コネキシン、<math>H^+,K^+</math>-ATPase、<math>Na^+</math>チャンネル、IP39等の電子線結晶学による膜タンパク質の構造解析についてのこれまでの研究業績は、国際的にも高い評価を受けている。本研究計画も、構造生物学のみならず、生理学あるいは細胞生物学にも大きな影響を与える重要なものである。</p> <p>一部、他の研究費や研究内容の重複について懸念する意見もあったが、本研究は、新しく開発している単粒子解析法も加えて、チャンネルを中心とする膜タンパク質の構造解析と機能解明を目的としており、基盤研究（S）として推進することが適当と判断した。</p>